

## 平成 28 年度第 1 回富良野市中小企業振興促進審議会議事録

日 時) 平成 28 年 12 月 8 日 (木) 午後 3 時 00 分～午後 4 時 28 分

場 所) 富良野市

出席委員) 平沢幸雄、大玉英史、市村英規、杉谷久己、吉田幸生、奈良定雄、浅利俊亮、  
荏原悦子、藤井雄一郎

事 務 局) 原経済部長、川上商工観光課長、本田商工労働係長、笹田商工労働係

### 1. 開会 (川上課長)

- ・ 本日は、審議委員 9 人が出席をいただいている。富良野市中小企業振興条例施行規則第 16 条の規定に基づき、会議が成立していることを報告する。

### 2. 辞令交付

### 3. 市長挨拶 (副市長代理)

- ・ 市長公務出張のため、代理となった。
- ・ 8 月以降、台風が相次いで上陸、南富良野町は大きな被害を受けた。それぞれの立場で復興支援に携わられていることに敬意を表する。
- ・ 秋の天候不順、また、例年より早い積雪等により、大豆やビートが影響を受けたが、農産物全体では価格は平年並みと聞く。雪が多い年の翌年は豊作傾向があるという話もあるので、来年は経済的にも良い年になれば。
- ・ 佐々木委員が富良野商工会議所役員人事により退任され、大玉委員が、さらには、北洋銀行の人事により金融協会会長の浅利委員が就任された。
- ・ 審議会で議論いただき、補助金、融資制度がたいへん使いやすいものとなっているとの評価を市民のみなさんからいただいている。引き続き、ご意見賜りたい。

### 4. 議事 議案第 1 号 会長の選出について

(川上課長)

- ・ 佐々木前会長が退任されたことに伴い、後任の会長選出を行う。
- ・ 会長の選出にあたっては、委員の互選により決定することとなっているが、会長が選出されるまで慣例により副市長が進行を行う。

(石井副市長)

- ・ 会長職は委員の互選により決定ということだが、推薦等があれば発言願う。  
(杉谷委員から、平沢委員を推す発言があり)
- ・ 杉谷委員から平沢委員を推薦いただきましたが、いかがか？  
(異議なしとの声があり)
- ・ 異議なしと認め、審議会の会長を平沢幸雄委員とする。

## 5. 会長挨拶

- ・ 佐々木前会長の後を受け、皆様に協力いただきながら、審議を行ってまいりたい。
- ・ 補助金制度、制度融資について、より使いやすい制度に向け、拡充する方向で検討していきたい。

## 6. 報告事項

(報告事項、事務局より説明、以下質疑のみ記載)

### (1) 平成 28 年度 審議会及び中小企業関連の会議開催について

(杉谷委員)

- ・ 金融機関との協定について、協定を締結して何をどのように連携推進しようとしているのか？

(事務局)

- ・ 制度融資、補助金の運用については、これまでも市と金融機関は連携してきているが、この度、市で富良野市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定するにあたり、これまでの連携に加え、子育てや人口減少対策など幅広い分野について連携していくことを確認した。具体的な連携事業については、それぞれの所管部署で取り組んでいくこととなっている。

(浅利委員)

- ・ 補足すると、これまで、道内でも個別の金融機関と行政が個別に連携協定を締結することはあったが、金融機関が連携して協定するのは北見市に続く 2 例目で、7 つの金融機関が協定に参加するのは今回が初。対外的にもアピール効果は高いものと思われる。協定締結により、コラボレーションがより進化するきっかけとなれば。

### (2) 中小企業振興総合補助金について

### (3) 富良野市の融資制度について

### (4) 地域振興消費拡大推進事業（プレミアムつき商品券事業への補助）について

(吉田委員)

- ・ スーパーマーケットで使用した金額には、いわゆるドラッグストアや DIY ショップの売上も含まれるのか？

(事務局)

- ・ 調査票にはスーパーマーケットで買い物した金額を記入するようになっており、その記入項目とは別に買い物種別ごとの金額を記入するようにしている。よって、スーパーマーケットの金額にはドラッグストア等での買い物金額は含まれていないものと受けとめている。

(奈良委員)

- ・ 商品券がおそらく二次利用、三次利用されていることを考えると、経済効果は、

(公表のものよりも)大きくなるはず。

(浅利委員)

- ・ 地元資本のお店で買い物した金額と大手チェーン店で買い物した金額が分けられないと、地元にとりだけ経済効果があったのかということが測定できないのではないかと。

(事務局)

- ・ 商品券の多くがスーパーマーケットで消費されているのではという意見をよくいただいていたので、調査項目を掲げて調査した。本来であれば、浅利委員のご指摘のとおり、地元資本とそれ以外に分類して買い物先を調査できればよかったが、そうすれば、調査項目が複雑になり回答者の負担も増えると考え、今回の方式で調査を実施した。

(浅利委員)

- ・ 調査の抽出率は？

(事務局)

- ・ 調査を2回実施しているが、合計で2000名に調査し、約半数から回答を得ている。

## (5) 雇用促進事業について

(平沢会長)

- ・ 市内企業から、人材の確保が大変だと話をよくきく。富良野商工会議所は、人材確保のため、移住者からよくきく「住むところがない」「家賃が高い」ということについて対策するため、従業員住宅を建設する検討を始めた。
- ・ また、一度は市外に出ても、再び戻ってきてもらうためには、親へのアピールも重要と考え、市の広報を活用してはという提案をした。市としても取り組む方向で検討してほしい。

(藤井委員)

- ・ 今年の夏の企業説明会に参加し、高校生1名の採用につながった。自社についてPRできる貴重な機会と考えており、ぜひ継続してほしい。
- ・ 資料によると、保護者も参加していたことがわかったが、同友会でも保護者に的確にPRすることが人材の確保につながることを話している。有効な対策として(企業説明会を)進化させて取り組んでいただきたい。
- ・ フラノジョブスタイルについて、当社も取材いただいたが、スマホで見ても、きれいなデザインだし、生徒や保護者へ訴えるものがある。ぜひこれも継続してほしい。

(杉谷委員)

- ・ 企業訪問の取り組みなどはしていないのか？

(事務局)

- ・ 上川教育局等が主催して企業見学会を行っているが、それ以上は実施していない。

(藤井委員)

- ・ 企業説明会のあと、(現地)説明会も開催した。説明会に来てくれた人が採用につながった。

(杉谷委員)

- ・ (会議資料の)有効求人倍率は、パート求人も含んでいるのか?移住やUターンを増やすとなれば、やはり正社員の求人がないと。

(事務局)

- ・ 含まれている。正社員だけの有効求人倍率でも1を超える月が出ている。

(市村委員)

- ・ 仕事を探している人は「仕事がない」といい、企業は、「人が来ない」という。これらのミスマッチが発生している原因を丁寧に紐解く必要があると思う。
- ・ 企業側も知ってもらう努力が必要だし、一般の方に知ってもらう取り組みを実行しなくてはならない。
- ・ 中小企業振興総合補助金で、学生に企業体験をさせたり、企業と一緒に何か事業を実施したりするときに、費用の助成ができないだろうか?今後の課題として検討いただきたい。

(平沢会長)

- ・ 大北土建工業では、会社の負担で学校へ行かせるようになった。そのほかでも学校に行かせたり、資格をとらせたりなど、人材を育成、確保するための企業負担も増えている。

(藤井委員)

- ・ 同友会でも、企業が「男性、フルタイム、長時間拘束」といった雇用スタイルを望んでも、実際にその条件では人が来なくなっていることをふまえ、Uターン者、セミリタイヤ、余生を過ごしたいなど、様々の就業ニーズがあるので、それぞれにターゲットをしぼった柔軟な雇用形態をとっていくことも必要と話をしている。
- ・ 企業側の都合だけ考えて条件設定し、そこから外れると「いない」と結論づけてしまうのでは、ミスマッチの解消にはつながらない。企業の学びも必要。

## 7. その他

事務局からは特になし

(平沢会長)

- ・ 議会の関係があるのも承知しているが、補助金は4月になる前から次年度の予定のような形でもいいので広報できないか?

(事務局)

- ・ 中小企業総合補助金は平成 29 年度まで、住宅リフォーム補助事業は平成 31 年度まで実施を予定していることは、公表しているのです、それをもって、工事業者のみなさんからも周知いただければ。いろんな説明会などでもこのようなお話をさせていただいている。

(杉谷委員)

- ・ 国でも小規模事業者持続化補助金など、小規模事業者への補助金の手厚くなっており、事業者の補助金に対する関心も高くなっている。市には、国の制度もあわせて PR してほしいし、市の補助金制度もリニューアルを継続して行い、より使いやすいものとしてほしい。

(平沢会長)

- ・ 意見として承るという取り扱いでよいか？ (杉谷委員、事務局、それぞれ承知)

8. 閉会 (午後 4 時 28 分終了)